



浄恩寺同朋会報

浄恩寺 雅楽葬 検索

電話 052-881-8474

「浄恩寺永代経法要」をお勤めします。
五月三日（水） 憲法記念日



「永代経」という言葉は、よく耳にされる言葉だと思えます。この語源は、「永代読経」といい、「永末く代々に渡ってお経をお勤めする」と解釈できます。

よく「永代経懇志を納めておけばお寺に参らなくても、亡くなった人（先祖）の為にずっとお経を勤めてくれるもの」と、誤解されがちなのですが、これはいわゆる「お経代」ではないのです。



私たちが真宗門徒の永代経懇志には「いつまでも、私たちのお寺をまもり、そこが心のより所として、み教えが伝わっていくように」との願いが込められているのです。そして、この願いを実現するお勤めが、永代経法要なのです。

「法要並境内地拡張御懇志」のお願いと「院号法名志」積立制度のご案内

当山では、この御懇志（永代経、孟蘭盆会、報恩講）をお寺の法要執行費と本山（東本願寺）に毎年納める納付金「相続講」とさせていただきます。

また、境内地拡張の積立金にもあてさせていただきます。当寺院の駐車場は、五台程度の敷地しかございません。そのため、近隣の空き地を購入する計画を立てております。なにとぞご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

御懇志（永代経、孟蘭盆会、報恩講）の一部金額を希望者に「院号法名志」の積立金とさせていただきます。

懇志の趣旨をご理解いただき、ご協力いただけますようお願い申し上げます。



住職総代一同

雅楽の楽器「笙」のメンテナンス

笙の音の出る仕組みは、ハーモニカの仕組みに似ています。「リード」と呼ばれる金属の板が振動をして、音が出ます。息を吹き込んでも、吸っても、音が出ます。大きく違うのは、笙のリードには「硝石」の粒子が塗られてあり、定期的に硝石の塗り替えが欠かせません。これを「洗い」と言います。洗いをすれば、音の「調律」が必要ですが、「洗い」と「調律」には、熟練の技術がないとできません。この技と豊富な知識を持つてみる先生が、「四日市天理教会」にみえます。

国内の様々な宗教団体が、儀式の伴奏として「雅楽」を演奏しています。その中で「天理大学雅楽部」出身の方々は、演奏、楽器製作やメンテナンズの高い技術を持ち、活躍してみえるのです。

四日市天理教会の浅井先生は、笙の達人、私は全面的に信頼を寄せ、約二年周期で訪ね、悩みを相談し、メンテナンスを依頼します。約一月下旬に依頼して、二月中旬に完成しました。いつも最初に息を吹き込む時が楽しみです。今回も大満足、いつも以上の完成度でした。今後も先生との縁を大切にしたいと願っております。



「永代経」について

「永代経」とは、永代にわたって、読経というかたちで仏さまの言葉（教え）に、私と私に続く縁のある人たちが出遇い続けていく御仏事です。それは先に立って人生を歩み、人生を終えていかれた大切な方々の「死」をご縁にして、仏さまの教えに身を据えて、私を学ばせていただくことです。

永代経法要は、「私に、人として生きるとはどういうことかを教えてくださる仏さま」と遇わせていただく尊い縁です。

永代経法要へのお参りをとおして、「仏さま」の教えに遇い、本当の「自分」に出遇っていただきたいと願っております。

